

報告者について

氏名(所属専攻・職名)	近藤 智嗣 (メディア社会文化専攻・准教授)
略歴	<p>学歴</p> <p>1988年 上越教育大学大学院学校教育研究科修了</p> <p>職歴</p> <p>1995年 放送教育開発センター研究開発部助手</p> <p>1997年 メディア教育開発センター研究開発部助手</p> <p>2001年 メディア教育開発センター研究開発部助教授 (准教授)</p> <p>2009年～ 放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター准教授</p>
専門分野	教育工学, 展示学
現在の研究テーマ	ミクストリアリティ技術の教育応用

報告内容について

題名	「伝える」を究める：ミクストリアリティによる博物館展示
概要	<p>博物館の重要な役割の1つに展示がある。この展示の技術は近年のデジタル技術によって大きく変わりつつある。本報告ではミクストリアリティ (MR: Mixed Reality: 複合現実感) というデジタル技術を取り上げ、その可能性を考えてみたい。</p> <p>MR はバーチャルリアリティ (VR) 技術の一形態であるが、VR との違いは、三次元コンピュータグラフィックス (3DCG) が「現実空間」に重畳される点である。博物館展示の場合、現実空間は「展示資料や展示室」にあたる。そのため、「モノ」が重要な博物館展示において、MR は展示と親和性が高いデジタル技術と言えよう。</p> <p>このMRによって、展示(伝える)をどこまで究められるかが、本報告の提案である。たとえば、見学者が展示資料を回り込みながら解説を視聴できること、情報 KIOSK 端末や携帯端末の画面ではなく展示資料の上で解説を視聴できること等は、従来の技術では困難だった展示手法である。</p> <p>本報告では、臨場感の高い双眼鏡型のデバイスを使用した展示事例を報告し、MRによる展示の可能性を検討する。</p>